

しごき

第20号



98年8月

(財) 日本野鳥の会三重県支部

植物・動物の暦をつくろう

杉浦邦彦

今年の冬を振り返ってみると、エルニーニョ現象なのか、地球温暖化のせいなのか全面的に暖冬が続いた。

三重県の中勢地方（伊勢）の定点でサクラの開花順序に異変があった。例年は沖縄の緋寒桜、枝垂桜、彼岸桜、染井吉野桜、山桜、大島桜、牡丹桜という順序で開花する桜が、彼岸と枝垂れは同時に、染井はばらばら、又は染井と大島が同時に咲いた。開花は2週間も早く、開花期間も長く色彩やかだったことが珍しかった。

例年越冬するツグミ、シロハラ、アオジは1月中旬まではお留守かと思えば、ツグミの囀鳴が1月25日に、シロハラは3月5日に各囀鳴した。

3月4日にはツグミが12羽、4月1日に10

0羽、4月20日1羽を記録して急に姿が見えなくなってしまった。その間ふんだんに毎日のようにツグミの囀鳴を聞くことができた。

シロハラやアオジの囀鳴もよく聞いた。珍しい現象で、本州中部の平野部で冬鳥の囀鳴がこんなに沢山聞かれるなんて以上だ。夏鳥のツバメは例年3月18日であったが今年は3月23日であった。オルリとキビタキは4月22日内宮の森で、4月30日にはオルリ、サンコウチョウ、キビタキ、ヨタカ、アオバトの囀鳴を神路山剣峠で、それぞれ聞いた。帰り道、ギンリョウソウが幽玄な姿をみせてくれたのは例年より1ヶ月ほど早い気がした。

このような自然のメモを各自につくってみると興味が倍増するのではないかと思う。

目次

今月の表紙

鹿島素子

植物・動物の暦を作ろう	2
総会報告	3～7
事務局の活動	8
宮川探鳥会のこと	9
探鳥会報告	10
沼井保護活動報告	11
事務局より	11
新入会員雑感	12
会員のページ	13～14
企画部だより	15

1998年度日本野鳥の会三重県支部総会報告

1998年4月19日(日)に三重県女性センターで、日本野鳥の会三重県支部総会を開き、報告や計画について原案どおり承認されましたので、その内容を簡単に報告します。

1. 1997年度事業報告

(1) 研究部報告

7ページ研究部報告参照

(2) 保護部報告

①シロチドリ保護活動

1996年度より引き続き河芸町豊津浦海岸と楠町吉崎梅岸において、管理者の許可を受けてシロチドリ繁殖保護地域を設け、繁殖状況を調査した。

②重要保護地域のリストアップについて

開発計画の有無に関わらず、保護していくべき自然のリストアップを行ってきた。その中で、三重県支部が公表を目的として調査活動を行っていきたい所として、次の10カ所を選走した。豊津浦、安濃川中流、吉崎梅岸、津神戸丘陵地、宮川中流、宮川・外城田川河口、大仏山周辺丘陵地、志原川河口、三滝川、海蔵川

③桑名郡長島町上坂手のコアジサシ、シロチドリ等の繁殖調査について

三重県より、調査を三重県支部に委託する話が来ている。

④田中川河口干潟について

9月に生物調査を行った。

(3) 編集部報告

支部報「しろちどり」の発行3回

発行が遅れて、4回発行予定のところ3回となった。

(4) 企画部報告

①探鳥会

69回予走していたが、その内63回実施し、雨天等で6回中止になった。

②探鳥会以外の企画部行事

4月20日野鳥講座④「減少する野鳥たち」

5月10日バードウィーク企画松阪港でテグス給い

11日バード：ウィーク企画四日市磯津でテグス捨い

13日～18日写真展「釣り針、釣り糸捨てないで！」

12月14日研修会「カモについて」

③「釣り糸、釣り針捨てないで」ポスターの製作について

2000枚作り県内の小・中・高校等と市町村に、県自然環境課を通じて配布した。

④日本野鳥の会の商品販売の事業

日本野鳥の会の商品の販売を総会や探鳥会の時におこない、収益が204,121円だった。この収益は支部の活動に使う予定。

(5) 運営事務局報告

①総会、理事会

三重県支部総会・4月20日

三重県支部理事会 4月20日、8月3日、12月7日、2月22日

②協力した行事

97グリーンフェスタINよっかいち4月29日：写真展「釣り針、釣り糸捨てないで！」
三重県と三重県警察の密猟パトロール5月15日：パトロールに参加
大杉谷ホテルまつり6月21日～22日：観察会

2. 1997年度決算報告

①決算報告

《省略》※決算報告書をご希望の方は、事務局までご連絡ください。

②監査報告

1998年4月12日、日本野鳥の会三重県支部事務所において会計監査をした結果、1997年度決算報告書並びに貸借対照表に記載されているとおり正常に処理されていることを確認した。

3. 運営事務局の廃止と三重県支部規則の変更について

日本野鳥の会三重県支部設立以来、規則では「事務局」と「運営事務局」があった。三重県支部設立より5年が経過し、支部活動の多様化に伴って、行政機関との折衝、本部や他団体との協働など、事務は多岐にわたり繁雑化してきている。また、支部長は三重県環境審議会委員等、公の役職を複数兼ねており、事務局との兼務は困難と考えられる。

そこで、三重県支部の組織機構を見直し、分かりやすく、活動しやすい組織にすることを目的として、三重県支部規則の一部を変更し、運営事務局を廃止、事務局のみとすることを提案し、承認された。

【承認された「財団法人日本野鳥の会三重県支部規則」の変更点】

◇第2条第1項

支部は事務局を支部長宅に置く。

(変更後) 支部は事務局を事務局長宅に置く。

◇第2条第2項

支部の円滑な事務運営上、運営事務局を置くことができる。

(変更後) 削除

◇第11条の4

事務局長は運営事務局を統括する。

(変更後) 事務局長は事務局を統括する。

《総会出席者からの質問と応答》

★三重県支部の組織はどうなっているのか、よく分からない。

☆7ページ参照

★運営事務局を事務局に変える趣旨は何か。

☆対外的なことも含めて、事務業務はほとんど運営事務局で行っている現状なので、規則を現状にあった形に変える。そのため、支部の組織や活動等は、今までとほとんど変わらない。

4. 1998年度事業計画

(1) 保護部計画

①重要保護地域リストアップについて

リストアップ地域の内10の地域(1997年度事業報告保護部報告参照)について、公表を目的として調査活動を行う。10月までの間に数回調査する。緊急性があればこの時点で公表、さ

らに冬鳥の調査を加えて、年度末に最終結果を公表する。櫛田川河口、伊賀地区の調査地域については今後検討する。

調査内容：生息・繁殖する鳥類、注目すべき動物相、主な植生、注目すべき植生、当面の保護上の問題点、開発、河川改修等、当該地域における自然保護、自然復元への積極的な提案

②シロチドリ保護活動

三重県支部でつくった看板、保護柵は3月に設置した。県予算による看板については、準備ができ次第設置する。パトロール、営巣調査については、吉崎、豊津浦、白塚、町屋海岸で分担して行う。吉崎海岸については、2週間に1度、繁殖地域に入って巣の確認を行う。豊津浦の一部では、巣の個別保護柵を設置する。

③案名郡長島町上坂手の整備、コアジサシ、シロチドリ等の調査について
三重県の負担による整備が可能になった。営巣調査については、スケジュールは未定だが実施する。（※委託調査を受託）

(2) 編集部計画

支部報「しろちどり」の発行4回予定（※原稿募集中）

(3) 企画部計画

①探鳥会

35回開催の予定。総会の出欠ハガキに「今年度は探鳥会の開催数が減らされると聞いたが、どうしてか。」という趣旨のことを書いてこられた方があったが、今年度は調査や保護活動の予定がたくさんあり、そちらに重点を置くため、探鳥会の開催予定数を減らした。ご理解のうえ、探鳥会とあわせて調査や保護活動にもご協力いただきたい。

②企画部担当行事

4月12日初心者向け探鳥会

19日野鳥講座⑤

5月10日バードウィーク企画：テグス捨い（四日市市、松阪市）

8月30日バードウォッチング案内人研修会

9月15日野鳥講座⑥

11月22日木曾岬合同探鳥会

1月31日三重動物学会との合同探鳥会

③「釣り糸、釣り針捨てないで！」ポスターの配布について

三重県支部会員の皆さんにも配布するので、地域の公民館等や行きつけの商店等に頼んではってもらってほしい。

④事業担当

今年度も探鳥会の時に本部の商品の販売を行う。各地区に担当者をおくので、ご注文いただきたい。

北勢：尾畑玲子、津：橋本富三、松阪：中村洋子、南勢：小坂里香、伊賀：塗失博一
《※事務局より補足》三重県支部で本部の商品を買っていただくと、利益の一部が三重県支部に入ります。いつもご協力をいただき、心よりお礼申し上げます。しかし、本部から商品が担当の小坂の所に届いた後、それを各地区の担当者に渡すのは、理事会や探鳥会の時に限られますので、お急ぎのご注文や、いつまでにといった期限付きのご注文は、どうかご容赦願います。担当者に商品の受け渡しのための旅費を支払えない現状ですので、ご理解のうえ、ご協力をお願いいたします。

(4) 研究部計画

7ページ研究部活動計画参照

5. 予算

《省略》※予算書をご希望の方は、事務局までご連絡ください。

《総会出席者からの質問と応答》

★事務局長通信費（8000円）は少なすぎるのではないか。

☆今年度から新設したもので、全体予算からみて配分した。

★三重野鳥の会当時より余剰金が増えてきているが、これをどうするのか。

☆ナショナルトラスト運動に似たことを考えており、そのような目的に便したい。

6. 連絡等

(1) 地球温暖化防止の取り組みについて

三重県より地球温暖化防止の取り組みとして、以下のことについて協力依頼があった。三重県支部としては、8と9に重点を置いて取り組みたいので協力を願います。他のことも、個人や家庭でできることはたくさんあるので、実行したり、周りの人に広めたりしてほしい。

1. 環境家計簿に取り組む。
2. 使い捨て製品の使用や購入を抑制する。
3. 紙、金属缶、ガラスびん、プラ：スチック、電池等について、ごみの分別を徹底する。
4. エコマーク商品など環境に配慮した製品を優先的に購入する。
5. 買い物には買い物袋を打参し、週剰包装は断る。
6. コピー用紙、コンピューター用紙、伝票・事務用箋、印刷物・パンフレット等について、再生紙や非木材紙への転換を進める。
7. コピー機、パソコン、プリンターなどのOA機器について、エネルギー効率の高い機器を積極的に導入する。
8. 冷暖房の温度設定を夏は28℃、冬は20℃以下にする。
9. 人を待つ時や荷物の積み干ろしをする時は、自動車のエンジンを切る。(アイドリング・ストップ)
10. 3階程度の昇り降りは、エレベーターを使わず階段を使う。
11. ISO14000シリーズの導入をすすめる。
12. 環境活動評価プログラムに参加する。
13. 低公害章の導入をすすめる。
14. ノーマイカーデーを実施する。
15. 時差出勤を実施する。
16. その他

(2) 「ヒナを捨わないで」ポスターについて

「ヒナを捨わないで」のポスターが本部から未定なので、はっていただける所があれば連絡してほしい。

(3) その他

野鳥講座⑤のことなど

日本野鳥の会三重県支部 1998年度 組織図



1997年度研究部活動報告

1. 三重県の委託調査：平成9年度鳥獣保護区設定効果調査

平成9年度鳥獣保護区設定効果調査を実施し、報告書を三重県に提出した。

(1) 調査地

平成10年度鳥獣保護区設定予定地：南勢町切原鳥獣保護区（予定面積：1750ha）

平成10年度鳥獣保護区設定予定地：南島町道方・池の田鳥獣保護区（予定面積：56ha）

(2) 調査時期

1997年6月（繁殖期1回） 1998年2月（狩猟期間中1回）

(3) 報告

南勢町切原鳥獣保護区設定予定地は、鳥獣の生息に適している現在の自然環境を維持していくように提言し、南島町道方・池の田鳥獣保護区設定予定地については、面積が狭いので拡大するよう提言した。

2. 三重県の委託調査：平成9年度ガン・カモ類一斉調査

平成9年度ガン・カモ類一斉調査を実施した。三重県支部は調査員34名で155ヶ所を調査、調査結果を三重県に報告した。

三重県の発表：三重県全域の調査地249ヶ所

ガン・カモ類16種44,469羽（前年より7,488羽減少）

3. シギ・チドリ全国カウント

日本湿地ネットワーク シギ・チドリ委員会の主催するシギ・チドリ全国カウントに参加した。

(1) 概要

1997年の春と秋に調査し、日本湿地ネットワーク シギ・チドリ委員会に調査結果を報告した。

(2) 調査地

鈴鹿川河口～鈴鹿側派川河口、田中川河口、志登茂川河口・安濃川河口、愛宕川～櫛田川河口

1998年度研究部活動計画

1. 三重県の委託調査：平成10年度鳥獣保護区設定効果調査

平成10年度鳥獣保護区設定効果調査を三重県より受託して、下記の鳥獣保護区設定予定地について調査し、報告書を提出する。

平成11年度設定予定：紀宝町浅里鳥獣保護区（誘致地区） 4ha

平成11年度設定予定：紀和町浅里鳥獣保護区（森林鳥獣生息地） 206ha

2. ガン・カモ類一斉調査

三重県から「平成10年度ガン・カモ類一斉調査」の委託があれば受託する。

3. 種の多様性調査～鳥類生息分布調査～（全国分布調査）

本部が環境庁より「種の多様性調査－鳥類分布調査－」を受託したので、三重県支部のこの調査に協力し、三重県内の調査を実施する。

(1) 調査の目的

・現在日本国内で知られている鳥類を対象として、鳥類の繁殖分布状況を把握する。

・昭和53年(1978)に実施した「第2回自然環境保全基礎調査」結果と比較して(同一方法、同一コース)

日本における鳥類の生息、繁殖分布状況の変化を把握する。

(2) 調査の実施

三重県支部が推薦した調査員に本部より調査要領・調査用紙等が送られ、調査員が5月～7月に調査を行って、その結果を本部に提出する。

4. シギ・チドリ全国カウント

1998年度もシギ・チドリ調査を実施し、日本湿地ネットワーク シギ・チドリ委員会に報告する。

調査予定地：朝明川河口、鈴鹿川河口～鈴鹿川派川河口、田中川河口、志登茂川河口・安濃川河口、愛宕川～櫛田川河口、外城田川河口・宮川河口

日本野鳥の会三重県支部事務局の3月中旬～5月中旬の主な活動（各部の活動は除く）

- 3 / 18 (水) ≪事務所≫総会通知・野鳥講座⑤通知・探鳥会案内4～5月・理事会通知の発送→会員へ
24 (火) 青山町奥鹿野休猟区同意書提出→青山町へ
- 4 / 4 (上) 野鳥講座⑤についての打ち合わせ文書発送→講師：古南氏へ
7 (火) ≪事務所≫総会準備等
14 (火) ≪事務所≫総会準備、新入会者への案内発送等
15 (水) 野鳥講座⑤の講師派遣依頼送付→日本野鳥の会会長へ
16 (本) ～18 (土) 総会・理事会準備
18 (土) 四日市鳥獣保護区更新同意書の送付→四日市市へ
野鳥講座⑤打ち合わせ（古南氏、支部長、企画部長、事務局長）
19 (日) 理事会、総会、野鳥講座⑤
21 (火) ≪事務所≫釣り糸捨てないでポスター（本部、各支部用）送付
22 (水) 県庁記者室で釣り糸捨てないでポスターの説明
（企画部長、企画西村、事務局長）
23 (木) 四日市市北山町銃猟禁止区域同意書提出→四日市市へ
27 (月) 上坂手シロチドリ等生息環境調査見積書提出→県自然環境課へ
28 (火) 釣り糸捨てないでポスターの地区市民センター・市立図書館への配布・掲示依頼に四日市市役所へ（事務局長）
≪事務所≫津地方県民局建設部長に安濃川河口砂州についての文書を送付
- 30 (木) 亀山市白川鳥獣保護区更新同意書の送付→亀山市へ
- 5 / 1 (金) 鳥獣保護区設定効果調査見積書提出→県自然環境課へ
8 (金) ≪事務所≫カスミ網反対文書送付→環境庁長官等へ
12 (火) 上坂手シロチドリ等生息環境調査の契約書送付→県自然環境課へ
「三重県における環境影響評価制度のあり方について（素案）」に関する意見の提出→県環境政策課
15 (金) ≪事務所≫探鳥会案内6～10月・釣り糸を捨てないでポスター等発送→会員へ

これ以外にも、文書作成、支部役員や県への電話連絡、本部への連絡、マスコミへの連絡、マスコミからの問い合わせ・取材への対応、希望者への入会案内の送付、などいろいろ行っています。会員の替様の目に触れる活動はごくわずかですが、ほとんど毎日事務局は動いていることをご理解のうえ、どうかご協力をお願いいたします。

宮川探鳥会のこと

小坂 里香

(財)日本野鳥の会三重県支部(南勢地区)では、今年度、「宮川」をテーマに4回の探鳥会を企画しました。

では、なぜ「宮川」なのでしょう。

流域に住む人たちにとって、宮川は身近な川です。あまりにも身近であるために気づかないことですが、この川は全国の一級河川の中でも飛び抜けて水質の高い川もあります。

しかし、宮川本流の水質は、決して流域の人たちの努力によって守られてきたものとばかりは言えません。源流域である大台山系の山々とそこをうるおす豊富な雨のたまもの、そして流域の生活排水を一手に引き受けてきた勢田川などの小河川のおかげとっていいでしょう。

その宮川の水質も、年々悪化の一途をたどっています。上流のダムで水を抜かれることで水量が減少し、それに追い打ちをかけるように、近年、流域の開発も進んで、流れ込む生活排水なども増えてきました。また、「緑のダム」といわれる上流部の森林も、林業の衰退、過疎化などにともない、荒廃しつつあるといわれています。

そこで、三重県では、平成9年度から「宮川流域ルネッサンス事業」として、宮川の水質向上・保全と流域の産業振興をはかる様々な政策をすすめています。しかし、個々の事業を見ると、その中には、自然に対して大きな影響を与えると思われるものも少なくありません。

宮川は私たち人間だけのものではなく、そこをよりどころとするたくさんの生き物たちのものです。そしてまた、宮川が抱えている問題は、ほかのすべての川の問題でもあります。

(財)日本野鳥の会三重県支部では、人間の営みが生き物たちの生活の場を奪う結果にならないよう、野鳥をはじめとする生き物たちの視点で、この事業を見つめていきたいと思っています。そこで探鳥会を通じて、この川のすばらしさ、問題点をあらためて見つめ直し、そこに住む野鳥たち、生き物たちの暮らしと、人との関わりを見ていきたいと思っています。

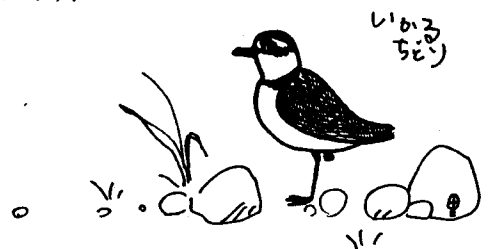
左の文章は、今年度南勢地区で行っている「宮川」探鳥会(4回シリーズ)の資料の冒頭に掲げたものです。この探鳥会はすでに宮川河口(伊勢市大湊町)、宮川上流(宮川村蘭)の2箇所で行われました。残る2回は下流地域(伊勢市宮川堤公園、7月5日(日))、中流地域(度会町、来年3月14日(日))で行います。

さて、「宮川ルネッサンス事業」とは何でしょう。簡単に言えば流域全体を一つの単位として考え、川を取り巻くさまざまな人間の営み(河川行政、農業、林業、漁業、商業、などなど)を調整し、宮川の水質と自然環境を保全しつつ地域を活性化していこうとする試みだといえますが、試み自体は、ほかの地域への応用の可能性を視野に入れた上で高く評価できる一方、一般にはわかりにくい部分も多くあります。また、野生動植物の生息地を守るということを主眼においてこの事業を見ると、それとは逆の方向へ突っ走ってしまうのではないかという不安感がぬぐえませんが、県全体で自然保護に関する難問が山積している状況ではありますが、特に宮川流域に居住している皆さんにはぜひ、この機会に「宮川」に目をむけていただきたいと思います。とりあえず探鳥会へのご参加、お待ちしております。

魚跳ねて虫追ひ 佇む鳥ありて

宮川今日も健やかに暮る

*左の文中に(財)日本野鳥の会三重県支部とありますが、「宮川」探鳥会は南勢地区で主催しています。



シロドリ保護活動速報

繁殖状況

吉崎海岸：台地からの観察に加えて、繁殖地に入り、調査した、巣はいくつか確認したが（5月4日4巣）、ヒナは確認できなかった。繁殖していてもごく少数のヒナしか孵化しなかったであろう。植生の繁茂により環境は悪化している。釣り客も増加した。

7月15日に柵の一部が破壊されているのを発見

7月29日に最終観察

8月23日に柵撤去予定（参加してください）

豊津浦／町屋浦

1週間ごとに観察した。のべ47名参加

発見した巣28（1997:21, 1998:41）これとは別に観察されてヒナの群：3群（1997:6, 1998:5群）孵化したヒナ数12-14羽（1997:21, 1998:22）

ヒナの内保護区1、3区で観察されたもの6羽

町屋浦、白塚海岸での孵化数：0羽

今年のヒナの数は少ないがこれが減少の傾向なのか、年による変動なのかは不明。水上スクーターが増え、繁殖環境は悪くなっている。今年は7月11日から渡り群（波打ち際、干潟での群）が観察されている。

今後（来年）の方向について保護活動参加者の会談を持ちたい（8月下旬）。

事務局より

1. カスミ網復活反対の意見書について

自民党農林漁業有害鳥獣対策議員連盟は鳥獣保護及狩猟二関スル法律を改定し、有害鳥獣駆除にカスミ網の使用を認めようとしています。

◇カスミ網は駆除の対象であるなしに関わらず、野鳥を捕獲してしまう道具であること

◇カスミ網を使った密猟が横行している現状において、カスミ網の使用を認めることは、密猟の抜け道になる危険性が大きいこと

三重県支部は上記の理由などにより、有害鳥獣駆除へのカスミ網の復活・導入に反対し、文書を自民党総裁橋本龍太郎氏をはじめとする、自民党農林漁業有害鳥獣対策議員連盟の幹事長、会長、自民党環境部会の部会長、部会長代理、三重2区選出の委員・平田耕一氏、そして環境庁長官あてに送付しました。このことについて、会員の皆さんのご協力をお願いいたします。

以下本部からの通知

カスミ網再導入の動きについて

拝啓 時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、新聞報道により、鳥獣保護法改正の論議の中で、カスミ網の使用を有害鳥獣駆除のために都道府県知事の裁量で認めていくことについての議論が自由民主党と環境庁の間でかなり進行していることがはっきりしてきました。とりわけ、自由民主党内に平成7年（1995年）に結成された「農林漁業有

害鳥獣対策議員連盟」（玉澤徳一郎会長、宮路和明幹事長）では、昨年の12月に「鳥獣保護及び狩猟制度の改善方策（案）」を提言し、カスミ網の有害鳥獣駆除への再導入を認める方向で動いていると報じられています。

カスミ網は、貴支部をはじめとした日本野鳥の会が総力あげて広く国民の支持を受けて、国会で全会一致で1991年（平成3年）に、「特定猟具」に指定されています。以後、厳しい取り締まりを行うことが規定されました。しかし、カスミ網使用の実態は岐阜県支部の報告書（添付資料、抜粋）等にもあるように依然として違法所持・使用・密猟の報告があります。一方、有害鳥獣駆除の現場も安易に駆除が行われている事例が数多く各地で報告されています。こうした現状で、カスミ網が使用・所持ができるようになれば、冬鳥・夏鳥など野鳥への影響は計り知れないものがあり、その存亡には大きな痛手となります。

バードウイークを前にして本会には、かつてのように支部のみなさんをはじめとして多くの人々と手をたずさえ、この動きを自由民主党と環境庁の段階で阻止していく活動が問われています。保護・調査センターでは、自由民主党の環境部会や報道機関への働きかけを強化していきます。つきましては、緊急に貴支部に以下の行動をお願いしたいと存じます。ご多忙中とは存じますが、非常に重要な局面にあると思われますので、是非ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

- ①自由民主党総裁、農林漁業有害鳥獣対策議員連盟会長・同幹事長、環境部会会長・同部会長代理宛の公開書簡に記名・押印され、議員会館宛にご郵送（もしくはFAX）ください。
- ②環境庁長官宛の公開書簡に記名押印され、環境庁長官宛にご郵送（もしくはFAX）ください。
- ③地元選出の自由民主党の農林漁業有害鳥獣対策議員連盟・環境部会に所属する議員宛の公開書簡に記名・押印されご郵送（もしくはFAX）ください。また、場合によっては直接事務所などに持参して説明し、手渡してください。
- ④バードウイーク等の機会にこの行動についても報道機関に伝えてください。

以上

2. オジロワシ野生復帰計画について

絶滅危惧種に指定されているオジロワシの飼育下繁殖個体の野生復帰が試みられましたので、追跡調査への協力依頼がオジロワシ野生復帰研究会より来ています。発見された方、詳しいことが知りたい方は、三重県支部事務局までご連絡ください。

目的：◇オジロワシをはじめとする絶滅の恐れのある猛禽類の野生復帰技術の確立◇オジロワシの極東個体群の補充対象個体：1993年4月釧路市動物園で孵化した雄1羽放鳥地と放鳥日：釧路市動物園1998年4月15日

標識：足環 環境庁140-02214

尾羽の染色赤色

発信機：尾羽中央基部（羽軸）に装着

新入会員雑感

「しろちどり」編集部の方から突然「新しく会員になって感じたことを書くように」との申しつけがありましたので「会報の埋め草にでもなれば」と思い厚顔をも顧みず感じたことを書き綴りました。お読み捨て下されば幸甚です。

私は11年前教職を定年退職し昨年、古稀を迎えた老人です。趣味と言えばこれまで45年間「熊野灘沿岸の貝類相の調査」をテーマにして貝類の採集と分類を続け、1200種程リストアップし鳥羽水族館に報告してきましたが一段落したので、「何か意図は別に取り組むことはないか」と思っていたところまたま本年2月地方で探鳥会が開かれることを新聞で知り参加させていただきました。当日は風が強く鳥はあまり見えませんでした。ズブの素人が勝手な質問をしてもどなたでも懇切にご説明を下さり、また情報交換なども良くわかるように話して頂き、この集まりに暖かいものを感じました。「これは新しく取り組むのに良い場を紹介して頂いた」と思い早速入会をさせていただいた次第です。

【雑感1】会の催しなどの新聞紹介は大きな威力を発揮してくれます。本会が単にサロンの集まりになってしまうこともなく、会の目的とするを更に広めてゆく為に会員を増やしていく上でも新聞などへの掲載は是非続けていただきたいものです。きっと私と同じようにこんな機会を探しておられる方が多勢いらっしゃると思いますので。

4月16日五十鈴川探鳥会に参加しました。はじめて五十鈴川の中流域を見ることができ、また神路山中の道を歩く機会を頂きました。このなかで野鳥はもちろん色々な植物についても種々ご指導を頂いて今まで全く関心を持ったことがなかった分野にも目を引かれ一層入会して良かったとの感を強めました。ご指導下さったのは吉居瑞徳様、林淳子様のお二人でしたがお二人の名前がなぜ私の記憶に残ったかと申しますとお二人がそれぞれ胸に名札を付けて下さっていたからです。それからもう一つ暖かいご配慮だなと感じたのは集合したとき最初に自己紹介をし合ったことです。これでお互いが近まったように思います。

【雑感2】探鳥会などの集まりがある時は「名札を付けるといいな」と思います。そうすることでお互いが早く名前を知りあいそしてこれが相互の結びつきを強めることとなると思うからです。特に私のような新人や初心者にとっては有り難いことです。何とか皆様でご検討して頂けたらと思います。

4月19日支部総会が開かれるとのご通知を頂きましたので、総会はどうのようなものか、またどんな方々が会員なのか、できたら何人かの方とお知り合いになれたらいいななどと思って出席させて頂きました。総会そのもの

のは今まで私が経験してきたものと大差はありませんでしたが、会長さんのご挨拶の中の鳩の鳴き声をききなしとして「これでいいのか」と訴えているとお話に胸を打たれました。出席して感じたことのひとつは「総会そのものの概要はわかったけれども組織の全体像は見えてこないなあ」と言うことです。事項書によると会員数は420人となっていますがどんな地域に何人くらいいらっしゃるのか、或いは自分の地方にはどんな方が会員として居られるのか、など全くわかりません。これでは結び付きを広めたりご指導を頂いたりすることもできません。これは私が新入会員であるせいかもしれませんか・・・人間関係づくりが不得手なものには重大なことと思うのですが・・・

「雑感3」420人分を作るのは無理としてもせめて地域別にでも会員名簿があればいいなあと思います。そうすれば前途の結びつきが強められると思えるのですが・・・

以上新入会員の目から見た感想です。失礼な内容や言葉もあったかと存じますがお許し下さい。

貝の採集をしていて実感したことですが「貝の種や個体数が目に見えて減少しています」この原因はいろいろあげられますが要約すれば全て人為的要因が基底にあると言うことです。そして本会に入会して会報「野鳥」などを読んでいて「野鳥も同じ現実におかれていること」を改めて実感しました。これは野鳥だけではなく「自然界全体の現実」と言えましょう。地球上の一生物「ヒト科ヒト」として生きる我々人間がこの現実の進行を少しでも食い止めるために小さな力であっても結集することが大事であることを痛感します。そしてこの活動を最大の目標とする本会の一員としてたとえ微力ではあっても参加できることを嬉しく思っています。

私は今、ふたつの出会いに喜びを実感しています、ひとつは自然界に深い関心を持って自然を愛し大事に守り育てていこうとされておられる方々のご指導を頂き学んでゆけることについてです。ふたつめは鳥たちとの出会いです。

今までは気にもとめなかった我が家の菜園にも季節に応じてメジロ、ホホジロ、カワラヒワなどがおとづれ時にはイソドヒヨドリがヘビイチゴをたべにきたりスズメやキジバトは常連で毎日顔を見せてくれることなども発見しました。

今はこれらをどのように記録すればよいかと考えます。写真に撮ったり観察ノートを作ろうかと考えた・・・

以上新入会員として感じたことをとりとめもなく書き連ねました。至らぬことろばかりですがこの草稿を機にご指導を頂ければ幸いです。

保平長三

(尾鷲市)

松阪市郊外、山室山奥墓で毎月第一木曜日に観察会をはじめて満一ヶ年たちました。昨年六月駐車場でサンコウチョウの声をきき池の奥の杉木立の中でサンコウチョウが小さな座っているのをみつけました。しかしその観察のすぐ後、季節はづれ台風が来て七月の観察時には木立は倒れ巣もサンコウチョウも居なくなっていました。今年は春の訪れが早く昨年と少し様子がちがっています。

“もしやサンコウチョウが来ているのかもしれぬ”と言う期待で森へ入りました。始めに耳に入ったのがキビタキのさえずりです。若葉で一ぱいの木立の中で声がきこえます。皆で、静かに静かに声の方に近より上を見上げますが、姿が見えません。木の上部をチョンチョンと移動するのか「声はすれども姿は見えず」です。次に期待して少し登ってみます。今夜はメジロのさえずりです。盛んに木の梢で鳴いています。

「チューベ、チューベ、チューチューベ」誰かがこんなききなしも教えてくれました。「テルテルミチル チルチルミチル」と。あの小さいからだで、良くこれだけの声が出ると思うくらい一生懸命です。少し小高い木の中から「ツキヒホシ ホイホイホイ」サンコウチョウの声です。皆でハッとして目を合せました。でも二回ほどなき声をきいただけでそのまま遠くに去っていった様です。「ピッピッピー チョットコイ チョットコイ」の声に又皆で耳をすませます。この声は昨年も昼食時に盛んに鳴いていましたが姿を見る事が出来なかった鳥です。「ジュケイ！」と誰かが言いました。そうしたら他の誰かが「あれは違うよ。キビタキの鳴き真似だよ。よくきいてごらん。次々と違う声を出すでしょう。」と教えてくれました。キビタキもモズのように他の鳥に鳴き真似をすることを初めて知りました。又木立の中で耳なれない声がします。やっと探し出したらホオジロでした。でも今までに耳にした事のないさえずりでした。森の若葉が一段と多くなりいろいろなさえずりや地なきをきく事が出来ましたが余り鳥の姿を見る事のない一日でした。

1998・5・7

松阪市

小津みゆき

久しぶり！胸のときめく探鳥会

居住地近辺の探鳥会にはほとんど参加し楽しんでる。最近、珍しい鳥に出会う機会が少なくなった。ところが先般『視全観察快』なる探鳥会が、志登茂川から安濃川河口にかけバードウォッチングをした時のことである。本日の収穫はミコアイサーが一番だったかと、探鳥会も終わろうとしていた矢先、埋め立て地の湿地帯を囲むフェンスに、小鳥の群が止まった。見慣れない野鳥だ。羽

根が暗褐色のほか、全身が深紅色。脇に白い斑点が散布している。一瞬胸のときめきを覚える。リーダーからベニスズメだと教えられる。久しぶりに見た鳥のリストが増えた探鳥会であった。

喜び勇んで帰宅。調べてみたら、野生化した飼鳥と判った。インド、ビルマ、インドシナでは自然分布、シンガポール、ハワイなどでは人為分布、日本でも川原などで繁殖しているらしい。丈夫で飼いやすい飼鳥のようだった。知らぬが仏か……若手消沈、淋しさを感じたが、珍しい鳥には変りはない。何時か、戸隠で見たニューナイスズメにベニスズメが加わりズメの仲間が三羽になった。

以前、大泉緑地公園では、必ず出会う鳥、冠羽から胸元が真紅なコウカンチョウ、これも野生化した飼鳥だったが、とても愛嬌がある野鳥で、出会うのが楽しみであった。

坂口 守



「ざーっと昔気になってた鳥」

西村幹和

小学校の2、3年の頃だと思ふ。図書室で1羽の鳥と出会った。童話の中に出てくる鳥である。なにぶん遠い記憶なのではっきりしないが大きな木のほらの中にクリクリ目玉のプクプク太った小鳥の絵が妙に心にのこった。

次の出合は高校の図書室である。

濱田廣介童話集の中の彼は哀れで悲しく胸をつめつけられるような愛おしさ。イメージはさらにふくらんだ。

3度目の出合は8年前、探鳥会のプロミナーの中である。

そこには私の抱いていたイメージとずいぶん違った小鳥の姿があった。

顔は白くボサボサした感じで、オレンジ色の嘴と足、そしてなによりギャーギャーとさわがしくあまりカワイイとわいえない。

そんな彼らが今年の冬も近くのやぶにねぐらをとった。

どこからともなく集まって電線の上で大さわぎ。500羽ほどになって飛び立つと、入るともなくあたりを数度旋回しサーッと降りてしまう。

ひととおりオシャベリのあと・・・静寂

30数年前に気になった鳥、実際に見てイメージダウンはあったものの私の中の「ムクドリ」は野原の大木のほうの中で母の帰りを夢見る、クリクリ、プクプクの小鳥である。

めぐりあい 二宮 孝 (四日市市)

3月26日の朝、勤め先について間もなく強烈な腹痛に襲われ、話す事も、歩く事もできなくなりました。近くの消防署から、泊の医療センターに連れていってもらいました。最初、内科の先生が来て下さり、腸閉塞か結石かも知れないと言われました。それから痛み止めをしてもらったり、血液の検査をもらい、レントゲン室に運ばれて何枚も撮られました。

痛み止めが効いて、うつらうつらして居たら今度は、外科の先生が見えて盲腸だと言われました。

別の部屋に移されてボーとしていたら美人の先生が現れ、盲腸ですが、薬で様子を見られますか、それとも手術をしますかと聞かれました。こんな美人の先生なら殺されてもいいと手術の方を選びました。その次にかわいい看護婦さんが来て手術のため剃毛しますと言います。後から、手術跡をみますと、こんなに下まで剃らなくてもいいのにと、おもっても後の祭りだ。

手術後3日目位に先生が見回りに来て、もう歩いてもいいですよと言われました。まだ腹部が吊るように痛むので縫った所が破れませんかと聞いたら大丈夫という返事でした。

その後の回復ぶりは我ながら驚く程でした。よく日にちぐすりと言いますが、時間ぐすりと言う新語を作ってもいい程でした。

13日目に無事退院できました。先生始め食事の世話までして下さった皆さんのお陰と感謝しています。

自宅療養の2日目に、ツバメの鳴き声が聞こえました。よく帰ってきたねと言うより、はるばる東南アジアからよく来てくださいましたという労いの言葉の方がピッタリします。病気をした御陰かも知れません。

今年は、3000回も口に泥を入れて運ぶという巣作りという重労働をしなくても良いせいか伝染に止まっている姿も心なしかユツタリしているように見えます。



車上狙いにご注意

バードウォッチングに熱中して車に帰ってくると、窓が割られて中の貴重品が盗まれるという被害が出ています。

特に津市から河芸町の海岸部に集中していますが、これ以外の場所でも十分注意して観察して下さい。

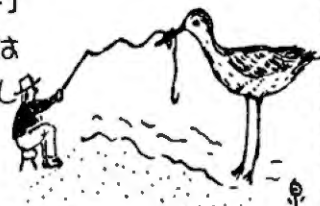
西村 泉(伊勢地区)

企画部だより

企画部では探鳥会の調整、バードウィーク行事、研修会、講座の開催などを行っています。

バードウィーク企画

- テグス拾い探鳥会ご苦労様でした。
- 松阪ではポスターを見てきたという高校生、親子連れなど会員外の姿が目立ちました。
- この日海岸では潮干狩り、釣りなど大にきわい、こういう人の集まる所には悲しいかなゴミとともにテグスも多い。「何で捨てるのかなー」拾いながらだんだん腹が立ってきました。人がいて鳥もいる風景にはゴミやテグスは似合わない、マナーを守ってほしいとつくづく実感した一日でした。
- この模様は「NHK、三重TVのニュースで流れました。
- ※テグスの量 磯津 93.5g-1215m 松阪 190g-2470m



あなたも「バードウォッチング」案内人になりませんか？

三重県支部では野鳥の観察を通じて自然の大切さを共感し守る心や行動を広げていくために探鳥会などの活動をボランティアで行っています。

あなたもバードウォッチング案内人として活動していただけませんか？

これから案内人をやってみようという方、および現在案内人をやって

下さっている方を対象に研修会を行います。

ひやかしも含めて歓迎しますので たくさんきてね!!

日時 98年 8月30日 13:30~16:30

場所 サンライフ松阪(松阪市川井町)

申込、問合せ 中村洋子

橋本祐子

※当日は愛宕川の探鳥会もあるので合わせて参加して下さい。

※申込下さった方に詳細をお送りします。

企画部

尾畑玲子(北) 村田芳雄(北)

矢田栄史(北) 遠矢博一(伊)

中村洋子(松) 橋本富三(津)

西村 泉(南) 小坂里香(南)

橋本祐子

企画部への意見、質問は各地区の企画部員または下記へ

橋本祐子 TEL,FAX

「しろどり」の原稿大募集！！

◎次号（21号）の特集。

「夏鳥が減った？」と言われていますが、あなたのフィールドではいかがですか？

原稿お寄せ下さい！！

◎支部への要望、鳥、自然について日頃思うこと…

お手紙に書いて、たくさんお送り下さい。

◎原稿の送り方

(1)郵送 :

林 淳子 宛

(2)電子メール :

吉居 瑞穂 宛

締切り 9月末

ご要望により

自動引落明細書と次期の会員証をお引落予定日より前にお送りします。

1998年3月6日引落予定の方から引落内容を前もってお知らせするように変更させていただきます。

■変更内容：(例) 4月6日に引落予定日の方の場合

今まで

お引落の後、4月末に
明細書と会員証をご送付

これから

お引落の前、3月中旬に
明細書と会員証をご送付

カット
鹿島素子 小坂里香
西村 泉

しろどり第20号

1998年8月発行

表紙絵 鹿島素子 題字 濱田 稔

編集 谷本勢津雄

TEL

発行者 財団法人日本野鳥の会三重県支部

〒516 伊勢市宇治浦田2丁目9-4 杉浦邦彦方

TEL

印刷 館印刷 〒510-13 三重郡菰野町田口1903-3